

2020 年室蘭市 中島商店街の BCP を考える⑤「土砂災害(+洪水浸水害)について」

日時	令和 2 年 12 月 15 日 (火) 18:30~19:30
場所	中島商店会コンソーシアム『ふれあいサロンほっとな〜る』
参加者	5 名
講師	室蘭工業大学 中津川 誠 氏

■近年の災害の状況

近年、全国で大水害が相次いでおり、北海道も例外ではない。2018 年 7 月の西日本豪雨災害では、大雨だけではなく、脆い土（真砂土）と人が多く住んでいることで被害が大きくなった事例である。室蘭でも起きる可能性はゼロではない。北海道で大雨となるパターンは、前線・(連続)台風、そして線状降水帯によるものが考えられ、大雨の回数も段々増えている。また、北海道は雪解けの時期に斜面災害の発生が最も多いので、注意が必要である。

■土砂災害から身を守るために

土砂災害の種類は、急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりの大きく分けて 3 つである。災害の要因は、雨だけではなく、ハザード(雨が強い)+暴露(人がいる)+脆弱性(地盤が脆い)といった要素で被害が拡大する。このような災害の要因は、ハザードマップに反映されている。室蘭市の土砂災害警戒区域は、2019 年 7 月時点で、279 箇所(未指定 118 箇所)指定率 70%であり、土砂災害特別警戒区域は 228 箇所(未指定 105 箇所)指定率 68%である。土砂災害の対処としては、役所版では気象庁の警戒レベルがあり、マスコミ版では室蘭民報社のむろみん便利帳・暮らしガイド・西胆振・防災編で情報を発信している。また、情報を集めて、自分の身は自分で守ることも重要であり、前兆現象の検知や避難の考え方等の事前の知識も必要である。

■洪水浸水害から身を守るために

室蘭市のハザードマップをみると、中島地区の津波の最大浸水深は 3.0~4.0m となっており、津波による浸水の危険性が高いことがわかる。洪水氾濫への対処として、役所版の警戒レベルの発信及びマスコミ版の室蘭民報社の防災情報の発信がある。また、金沢市のホームページでは、洪水氾濫時の避難について掲載しており、情報が充実してわかりやすい事例であり、このような情報発信は有効的である。

■避難スイッチを入れるために

避難行動のあり方の 1 つの事例として、2014 年 9 月 11 日に札幌市が特別警報を発令し、781,000 人に避難勧告を出したが、避難者は最大 479 名であった。被害はなく、「空振り」に終わったが、安全側にたった避難勧告等は市民に許容されている。一方、避難場所の開設の遅れ等の課題が見られ、危機対応力の向上が図られた。課題に対する札幌市の取組みとしては、わかりやすい情報を発信するための防災アプリを開発している。また、オランダの事例でも、防災情報を知ることができるツールを提供しており、日常的な防災意識の向上を図っている。避難勧告・指示が出て避難しない人に対しては、五感に響く情報が必要だと考え、模型を使った啓発や VR・AR を使ったリアリティーのある情報が有効だと考える。



【講義状況】



【講演状況】